

『宇智・吉野郡新四国八十八ヶ所巡拝道中記』

鎌田道隆
安田真紀子

ここに紹介する『宇智・吉野郡新四国八十八ヶ所巡拝道中記』は、奈良県五条市三在の月見寺に所蔵されている『宇智・吉野郡新四国八十八ヶ所霊場巡拝案内記』に、本文として掲載されているものである。

『宇智・吉野郡新四国八十八ヶ所霊場巡拝案内記』は、明治四十三年（一九一〇）に南葛城郡御所町（現御所市）の西川勝治郎が発起人となって発行された。はしがきには、霊場が成立した頃より百年を経て、廃絶した札所も少なくないことから、新しく案内記を製作して巡拝者の便宜をはかろうと、残っていた文化七年（二八一〇）開板の道中記を本文に載せ、巻尾に札所や順路を改めた案内記を記したとある。

文化七年版の道中記原本は見つかっておらず、原題も明らかではない。今回は、仮題『宇智・吉野郡新四国八十八ヶ所巡拝道中記』として紹介した。^{注1}

『宇智・吉野郡新四国八十八ヶ所霊場巡拝案内記』は、縦5.5cm、横15.9cmで、前半の文化七年版道中記には、新四国の札所の番号、所在地、寺院名と本四国の札所の番号、所在国名、寺院名、御詠歌、および新

四国の次の札所への距離が記されており、後半には明治四十三年に再編成された霊場が記されている。再編成された案内記には、文化七年版道中記とは番号の異なる寺や、廃絶した札所にかわって新たに組み込まれた寺院が見受けられ、巡拝順も異なっている。

新四国霊場は、四国八十八ヶ所霊場（本四国）を四国への遠路等を理由に、地方へ移植したもので、近世に入り全国各地に設立された。奈良県内にも近世に成立したと思われる新四国霊場がいくつか存在するが、案内記や御詠歌集が残されているものはわずかで、霊場の全容が明らかになっているものは極めて少ない。その意味においても、『宇智・吉野郡新四国八十八ヶ所巡拝道中記』は数少ない貴重な史料であるといえる。また、宇智・吉野郡新四国八十八ヶ所霊場は、大和新四国八十八ヶ所霊場と名称を変え、現在も多くの巡拝者で賑わっている。^{注2}

なお、ここにとりあげた『宇智・吉野郡新四国八十八ヶ所巡拝道中記』は、平成五年度の文学部プロジェクト研究「近世大和の社寺観光と参詣街道に関する研究」の一つとして、現地調査・撮影したものである。

最後に、史料の提供、現地調査でお世話になった月見寺および五条市の皆様に謝意を表す。

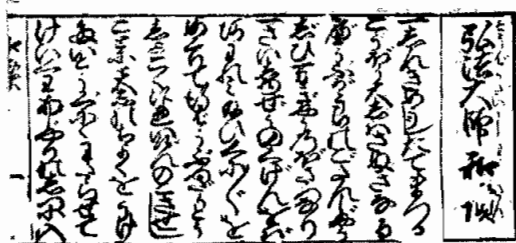
注①米田藤博氏が『パイオニア第三十一号』（昭和六十一年三月刊）で、「霊場記集」として、本史料を写真紹介されている。なお、米田氏は本史料を中心とする「大和新四国」関係の史料研究、および道しるべの調査等について、成果を『パイオニア』誌上に発表されている。

注②五条市二見の魚谷義盛氏・同義信氏の父子が中心となって大和新四国八十八ヶ所霊場巡拝が昭和二十年代から復活され、春秋二回にわたり盛大に挙行されている。

（本研究は、鎌田研究室のプロジェクト共同研究の成果の一部である。解説は安田真紀子、史料校訂は鎌田道隆・安田真紀子が担当した）

凡 例

- 一、できるだけ原典の体裁を示すように、野線・改行は原典に従った。
- 一、写真版に見える柱題および丁数は煩雑となるので、削除した。
- 一、本文下欄の距離を示す丁数表示は、現行の表記に改め左からとした。
- 一、地名、寺名、御詠歌等は、原文のままの表記としたが、変体仮名はひらかなにあらためた。
- 一、異体文字・旧字は、通用の字体に改めた。
- 一、「為」の草体「ゐ」と「恵」の草体「ゑ」は、もとのままとした。
- 一、本四国の札所番号のかこみは、 から（ ）にかえた。



弘法大師和讃

一しんきめうじたてまつる
 こうぼう大しはさぬきなる
 べうぶがうらのごたんじやう
 じひ万ぎやうのぼさつなり
 一さいしゆせうのくげんをば
 あわれみ給ひくにぐを
 めぐりて行ばうぶつさうとう
 しよこくにれいげんのこさせし
 ことに天しのちよくをうけ
 たいとうぐに、わたらせ
 けいくわあじやりのしつに入



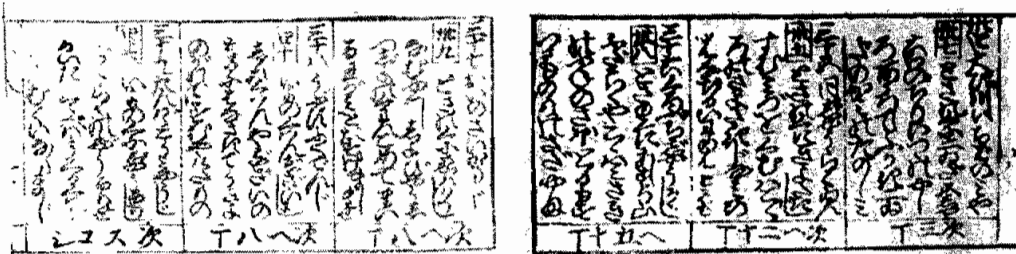
ひみつのほうをつたへらる
 大かくしんれんひらくれば
 三みやう六つうしざいにて
 すなはちへんじやうこんがうの
 くらゐを得させ給ふなり
 げにもろこしの大わうも
 こくしとたつとびうやまはせ
 五ひつわじようとなづけられ
 きずいかずく、あらはせる
 わがひのもとのみかどにも
 くわんぢやうだんにいり給ひ
 しよ大じんとうもろとも
 きへかつかうぞふかゝりき
 天長あめのいのりには
 ぜんによりう王あらはれて
 三日三やふりつゞき
 こくかばんみんやすらいぬ
 せいれうでんのろんじよには
 大日によらいとじげんして
 くはうみやうかゝやき給ふこそ
 しんこんひみつのふしぎなれ
 しゝんでんにはみしほととて
 大しこのかたいまになを
 まいねん正月七日より
 天かぶねうのいのりあり
 それより天しほうぎよにも



<p>とうじのとうのいだゝきに とうみやうてらしかゝやかせ 御いんどうとぞれいずいぞ じんづうじざいのほうりきは こくかにじゆふをほどこして 二世あんらくをめぐみつゝ よゝのしゆぜうをみちびけり ぐはんがしやうぐけんしよぶつ せゝごうもんじんめうでん ごうしゆふたいぼさつぎやう しつしゆむじやう大ぼだい</p>	<p>くはうみやうしんごん二十一反 大師めうがふ二十一反</p>	<p>一ばん こじま ぬいさんじ (一) あはのくにれうぜんじ れうぜんのしやかのみまへ にめぐりきてよろづの つみもきへうせにけり</p>	<p>二ばん 同 もんじゆゑん (二) あはのくにこくらくじ こくらくのみだのじやうどへ ゆきたくばなむあみだ ぶつくちくせにせよ</p>	<p>三ばん 同 むめむろゑん (三) あはのくにこんせんじ こくらくのたからのいけ をおもへたゝこがねのい づみすみたゝへたる</p>
次へ少	次半丁	次へ半丁		



<p>廿八ばん ゆしほ ぎよくせんじ (廿九)とさのくにこくぶんじ くをわけたからをつみ てたつてらのすへのよま でのりやくのこせり</p>	<p>廿九ばん たきのさいくほうじ (三十一)とさのくにちくりんじ なむもんじゆみよのほと けのはとときくわれも こなればちとそほしけれ</p>	<p>卅ばん えづる さいれんじ (三十二)とさのくにせんじぶじ しづかなるわがみなも とのせんじぶじうかふとこ ろはのりのはやふね</p>	<p>卅一ばん かうのちぎうじ (卅三)とさのくにこうふくじ たひのみちうへしもいま はこうふくじのちのたの しみありあけの月</p>	<p>卅二ばん わだのくはうみやうじ (卅四)とさのくにたねま寺 よのなかにまける五こ くのたねまでらふかき によらいの大ひなりけり</p>	<p>卅三ばん むかいあなふ ちんこくじ (卅六)とさのくにせうりうし わつかなるいづみにすめ るせうりうはぶつはう しゆこのちかいとぞまき</p>
次十三丁	次九丁	次五丁	次十丁	次九丁	次二丁



<p>卅四 大びつ いちばのみや (卅七)とさのくに二ゑだ五しや 六つのちりいつのやし ろあらはしてふかき二ゑ だのかみのたのしみ</p>	<p>三十五 同 じやうらくゑん (卅五)とさのくにきよたまじ すむみづをくむはこ ろのきよたまじなみの はなちるいわのはごろも</p>	<p>三十六 くらぶち じやうかくじ (卅八)とさのくにあしすり山 ふだらくやこはみさき のふねのさほとるもす つるものりのさだやま</p>	<p>三十七 おいの さいかうじ (卅九)とさのくにゑんかうじ なむやくししよびやうし つじよのぐわんこめてまい るわがみをたすけましませ</p>	<p>三十八 うぶす ふくでんじ (四十)いよのくはんじさいじ しんくはんやじさいの はるにはなさきてうきよ のがれてすむやけだもの</p>	<p>三十九 たんばら こうみやうじ (四十二)いよのくにじやうるりじ ごくらくのじやうるりせ かいたくらべはうくるくはら くはむくいならまじ</p>
次三丁	次二十丁	五十丁	次八丁	次八丁	次スコシ

<p>大のくはんおんじ いよのくにさいりんじ みだぶつせかいをたづね きたくばにのしはやし のてらへまいれよ</p> <p>四十五 大のくはんおんじ (四十五) いよのくにさいりんじ みだぶつせかいをたづね きたくばにのしはやし のてらへまいれよ</p> <p>次へ十丁</p>	<p>みやま ほうざうじ いよのくにやさかであら はなをみてうたよむ人 のやさかであら三ぶつじやう のゑんとこそまきけ</p> <p>四十六 みやま ほうざうじ (四十七) いよのくにやさかであら はなをみてうたよむ人 のやさかであら三ぶつじやう のゑんとこそまきけ</p> <p>次へ八丁</p>	<p>くろま ふくしやうじ いよのくにじやうどじ 十あくのわがみをすて ずそのまゝにじやうどの てらへまいりこそすれ</p> <p>四十七 くろま ふくしやうじ (四十九) いよのくにじやうどじ 十あくのわがみをすて ずそのまゝにじやうどの てらへまいりこそすれ</p> <p>次へ四丁</p>	<p>なかむら めくはうじ いよのくにはんたじ よろづにてはんたなると もおこたらずしゆびやうな かれとのぞみいれよ</p> <p>四十八 なかむら めくはうじ (五十) いよのくにはんたじ よろづにてはんたなると もおこたらずしゆびやうな かれとのぞみいれよ</p> <p>次十一丁</p>	<p>やまかげ こんがうじ いよのくにいして寺 さいはうをよそとはみま じあんやうのてらへまいり てうくる十らく</p> <p>四十九 やまかげ こんがうじ (五十一) いよのくにいして寺 さいはうをよそとはみま じあんやうのてらへまいり てうくる十らく</p> <p>次四丁</p>	<p>ひやうの しやかじ いよのくにたいさんじ たいさんへのぼれはあせの いでけれどのちのよお もひなんのくもなし</p> <p>五十 ひやうの しやかじ (五十二) いよのくにたいさんじ たいさんへのぼれはあせの いでけれどのちのよお もひなんのくもなし</p> <p>次二丁</p>
---	---	---	--	--	---

<p>たんばら きちせうじ いよのくにくはんおんじ おざやまはるかのみち をのぼりきてころのつ きとこにありあけ</p> <p>同 たんばら きちせうじ (外) いよのくにくはんおんじ おざやまはるかのみち をのぼりきてころのつ きとこにありあけ</p> <p>次へ八丁</p>	<p>みやうじゆゑん いよのくにぶつもくじ くさもきもほとけになれ るぶつもくじなをたのもし きまぢく人でん</p> <p>四十三 同 みやうじゆゑん (四十二) いよのくにぶつもくじ くさもきもほとけになれ るぶつもくじなをたのもし きまぢく人でん</p> <p>次へスコシ</p>	<p>じやうじゆゑん いよのくにあげいしじ きくならくせんじゆのち かいふしぎには大ばんじや くもかるくあげいし</p> <p>四十二 同 じやうじゆゑん (四十三) いよのくにあげいしじ きくならくせんじゆのち かいふしぎには大ばんじや くもかるくあげいし</p> <p>次スコシ</p>	<p>しんりうゑん いよのくにすがうさん いまのよは大ひのめぐ みすがうさんついは みだのちかいをぞまつ</p> <p>四十一 同 しんりうゑん (四十四) いよのくにすがうさん いまのよは大ひのめぐ みすがうさんついは みだのちかいをぞまつ</p> <p>次一丁半</p>	<p>じやうれんゑん いよのくにいわや寺 のげにいわやいしのな かにもこくらくぞある</p> <p>四十 たんばら じやうれんゑん (四十五) いよのくにいわや寺 のげにいわやいしのな かにもこくらくぞある</p> <p>次スコシ</p>
---	--	---	---	---

<p>くはんおんじ いよのくにさいりんじ みだぶつせかいをたづね きたくばにのしはやし のてらへまいれよ</p> <p>四十五 大のくはんおんじ (四十八) いよのくにさいりんじ みだぶつせかいをたづね きたくばにのしはやし のてらへまいれよ</p> <p>次へ十丁</p>	<p>ほうざうじ いよのくにやさかであら はなをみてうたよむ人 のやさかであら三ぶつじやう のゑんとこそまきけ</p> <p>四十六 みやま ほうざうじ (四十七) いよのくにやさかであら はなをみてうたよむ人 のやさかであら三ぶつじやう のゑんとこそまきけ</p> <p>次へ八丁</p>	<p>ふくしやうじ いよのくにじやうどじ 十あくのわがみをすて ずそのまゝにじやうどの てらへまいりこそすれ</p> <p>四十七 くろま ふくしやうじ (四十九) いよのくにじやうどじ 十あくのわがみをすて ずそのまゝにじやうどの てらへまいりこそすれ</p> <p>次へ四丁</p>	<p>めくはうじ いよのくにはんたじ よろづにてはんたなると もおこたらずしゆびやうな かれとのぞみいれよ</p> <p>四十八 なかむら めくはうじ (五十) いよのくにはんたじ よろづにてはんたなると もおこたらずしゆびやうな かれとのぞみいれよ</p> <p>次十一丁</p>	<p>こんがうじ いよのくにいして寺 さいはうをよそとはみま じあんやうのてらへまいり てうくる十らく</p> <p>四十九 やまかげ こんがうじ (五十一) いよのくにいして寺 さいはうをよそとはみま じあんやうのてらへまいり てうくる十らく</p> <p>次四丁</p>	<p>しやかじ いよのくにたいさんじ たいさんへのぼれはあせの いでけれどのちのよお もひなんのくもなし</p> <p>五十 ひやうの しやかじ (五十二) いよのくにたいさんじ たいさんへのぼれはあせの いでけれどのちのよお もひなんのくもなし</p> <p>次二丁</p>
---	---	---	---	---	--

<p>平六 同 ありてやが ていへばらばのい んたうたのみおきつゝ</p>	<p>平七 ひろちの さいこんじ (五十六) いよのくにたいいさんじ みな人のまじりてやが ていへばらばのい んたうたのみおきつゝ</p>	<p>平八 ひろちの さいこんじ (五十七) いよのくにこくぶんじ しゆこのためとてあが むるこくぶんじいよくめ ぐむやくしなりけり</p>	<p>平九 ひろちの さいこんじ (五十八) はたけだ さいふくじ (六十) いよのくによこみねじ たてよこにみねやま べにてらたてゝあまね く人をすくうものかな</p>	<p>平十 ひろちの さいこんじ (五十九) いぬかい はうりんじ (六十五) いよのくに三かくじ おそろしやみつつのつを にもいるならばこゝろを まろくみだをねんぜよ</p>	<p>平十一 ひろちの さいこんじ (六十) よらせ しゃうれんじ (六十三) いよのくにきちせうじ みのうちのあしきひはう をうちすてゝみなきはう じやうをのぞみいれよ</p>
---	---	--	---	--	---

<p>五十一 ひやうの あんにちじ (五十三) いよのくにあんみやうじ らいかうのみだのひかりの あんみやうじてりそふか げはよなくのつき</p>	<p>五十二 ひろちの さいこんじ (五十六) いよのくにたいいさんじ みな人のまじりてやが ていへばらばのい んたうたのみおきつゝ</p>	<p>五十三 大づ 平でんじ (五十四) いよのくにあんめいじ くもりなきかゞみのあん とながむれはのこさず かけをうつつすものかな</p>	<p>五十四 大づのめうおんじ (五十五) いよのくになんこふぼう このところみしまにゆめの さめければべつくと てもおなじしいしやく</p>	<p>五十五 あいたに ぶれうじ (五十八) いよのくにせんゆうじ たちよつてされいのどふ にやすみつゝ六じをと なへきやうをよむべし</p>	<p>五十六 同 あみだじ (五十七) いよのくにいふくじ このよではゆみやをま もるやはたなりいせは 人をすくうみだぶつ</p>
次六丁	次一丁半	次九丁	次三丁	次十丁	次六丁

<p>平十二 ひろちの さいこんじ (六十) よらせ しゃうれんじ (六十三) いよのくにきちせうじ みのうちのあしきひはう をうちすてゝみなきはう じやうをのぞみいれよ</p>	<p>平十三 ひろちの さいこんじ (六十五) いよのくに三かくじ おそろしやみつつのつを にもいるならばこゝろを まろくみだをねんぜよ</p>	<p>平十四 ひろちの さいこんじ (六十) よらせ しゃうれんじ (六十三) いよのくにきちせうじ みのうちのあしきひはう をうちすてゝみなきはう じやうをのぞみいれよ</p>	<p>平十五 ひろちの さいこんじ (六十五) いよのくに三かくじ おそろしやみつつのつを にもいるならばこゝろを まろくみだをねんぜよ</p>	<p>平十六 ひろちの さいこんじ (六十) よらせ しゃうれんじ (六十三) いよのくにきちせうじ みのうちのあしきひはう をうちすてゝみなきはう じやうをのぞみいれよ</p>	<p>平十七 ひろちの さいこんじ (六十) よらせ しゃうれんじ (六十三) いよのくにきちせうじ みのうちのあしきひはう をうちすてゝみなきはう じやうをのぞみいれよ</p>
---	--	---	--	---	---

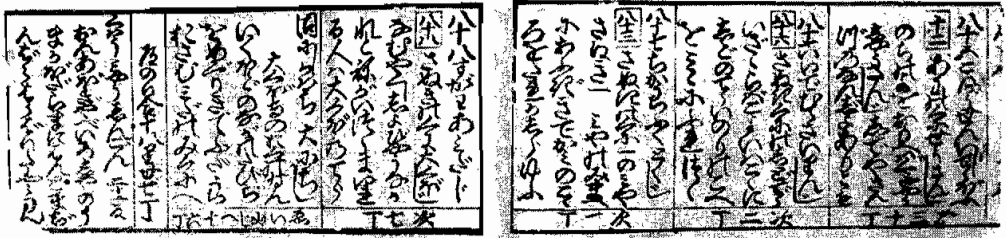
<p>同 ふたみ とうしやうじ (外) 三かくしおくのあん きくならくみつちのちま たにいるならばなどか大 しをあふがざるらん</p>	<p>同 きのはら じやうぐはんじ (外) いしづち山おくのあん ありがたや四こくれいじよ のすい一のいしづちさ んをこゝにむかふる</p>	<p>五十八 はたけだ さいふくじ (六十) いよのくによこみねじ たてよこにみねやま べにてらたてゝあまね く人をすくうものかな</p>	<p>五十九 いぬかい はうりんじ (六十五) いよのくに三かくじ おそろしやみつつのつを にもいるならばこゝろを まろくみだをねんぜよ</p>	<p>六十 よらせ しゃうれんじ (六十三) いよのくにきちせうじ みのうちのあしきひはう をうちすてゝみなきはう じやうをのぞみいれよ</p>	<p>六十一 ひろちの さいこんじ (六十五) いよのくに三かくじ おそろしやみつつのつを にもいるならばこゝろを まろくみだをねんぜよ</p>
次八丁	次十六丁	次十一丁	次二丁	次四丁	次二丁

七十三 おかのくわんおんじ (七十九) さぬきくにまにじゆめん ぜうらくのうきよのなかを たづぬべしてんわうさへ もさすらへぞある	七十四 おかのあいぜんじ (八十一) さぬきのしらみねじ しもさむくつゆしろた へのてらのうちみなをと なふるのりのこへぐ	七十五 おかのあんらくじ (七十七) さぬきのだうりうじ ねがいをばぶつだうりうに 入はて、ぼだいの月 を見まくほしさに	七十六 下中 大ぜんじ (七十三) さぬきくにしゆつしやかじ まよひぬる六だうしゆ ぜうをすくわんとたつとき 山にいづるしやかでら	七十七 上中 さいほうじ (七十二) さぬきくにまんだらじ わづかにもまんだらおが む人はたぶた、びみ たびかへらざらまじ	七十八 大ざわ れんげじ (八十七) さぬきくにながをでら あしびきの山どりのを のながをでらあきの よすがらみだをとなへよ
--	--	---	--	--	---

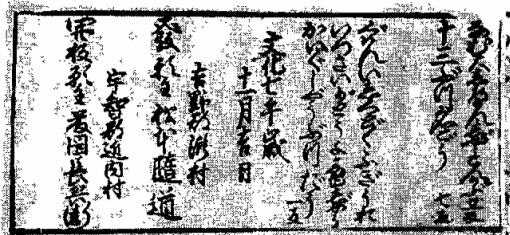
次十五丁	次十八丁	次三丁	次八丁	次三丁	次へ一丁半
------	------	-----	-----	-----	-------

七十九 大ざわ 大たくじ (七十六) さぬきくにこんさうじ まことにもじんぶつさう をひらくげばしんごんか ちのふしきなりけり	八十 きのさうこくじ (八十四) さぬきくに八しま寺 あづさゆみやしまのみ やにまふでつ、いのりを かけていさむもの、ふ	八十一 かみのむら きんかうじ (七十四) さぬきにかう山寺 十二じんみかたにもてるい くさにはおのれとこ、 るかぶとやまかな	八十二 おかの八まんじ (八十) さぬきにくくぶんじ くにをわけのやまをし のきてらぐにまいれる 人をたすけましませ	八十三 くるの、ちぶくじ (八十五) さぬきくにやくりじ ぼんのふをむねのち火 にてやくりをばしゆぎやう じやならでたれかしるべき	八十四 おわのはうわうじ (十一) あわのくにふぢるでら いろもかもむびちうだう のふじるでらしんによのな みのた、ぬひもなし
--	---	--	---	--	--

次二十丁	次十二丁	次八丁	次へ二丁	次十五丁	次二十丁
------	------	-----	------	------	------



<p>八十五 こんがうせん いしでらばふ (十二) あわのくへにせうさんじ のちのよをおもへばくきやう しやうさんじしでやさん づのなんじよありとも</p>	<p>八十六 いでむら さいりんじ (八十六) さぬきくにのしどでら いざうらばこよいはこゝに しどのてらいのりのこへ をみよにふれつゝ</p>	<p>八十七 ちかうち ふくとくじ (八十三) さぬきのに一のみや さぬき一みやのみまへ にあふぎきでかみのこゝ ろをたれかしらいふ</p>	<p>八十八 すがわ あみだじ (八十八) さぬきのに大くぼじ なむやくししよびやうなか れとねがいつゝまいれ る人は大くぼのてら</p>	<p>同 にしかはち 大にちし 大くぼ寺のおくのるん いくほどのながのたびち をめぐりきてふだうち おさむみだのみくにへ</p>	<p>道のり合十八里廿七丁 くはうみやうしんごん 二十一反 おんあぼぎやべいろしやのう まかぼだらまにはんとまち んばらはらばりたやうん</p>
次三十丁	次二丁	次一丁	次七丁	畠い山じへ十六丁	



なむ大しへんじやうこんがふ廿一反
十三ぶつ名こう
七反

くはんいしくどくふぎうお
いつさいもとうよしゆじゆう
かいぐじやうぶつだう 一反

文化七年歳
十一月吉日

発願主 吉野郡瀧村
松本随道

開板願主 宇智郡近内村
藤岡長兵衛